

あすなろ

＝発行＝

宮古島市立
平良中学校

進路担当:川満洋平

誰かの名言

◆一度きりの人生、投げ出すな。運命は変えられる。

県立高校入試Web出願システム

アカウント登録が始まりました。

沖縄県立高校入試へ
に向けて、Web出願システムのアカウント登録期間が始まりました。
個人のメールアドレスが必要となるため、各ご家庭で進めていただきまます。志望校が決まっていない人も、住所や保護者情報を入力する必要があるので、早くアカウント登録を行い、入力を進めてください。システム登録後に届くメールに記載されたIDとパスワードを控えておくようにお願いします。アカウント登録の方法については、平良中学校のHPにマニュアルを掲載しております。ご覧になりながら進めてください。進めることが困難な場合は、担任へ早めにご相談ください。

また、各高校のHPに入試要項が掲載されました。入試の日程や内容、特色選抜での実績の点数や、独自検査の内容が書かれています。11月中にはどの高校も掲載する流れになっていますので、志望する高校の学科が何名枠があるのかも、各自意識してチェックして下さい。

さて、県立高校の一
般選抜では、「志願変
更」のチャンスが一回
あります。その志願変
更の注意点について述
べますので、しっかりと
読んで下さい。

① 第一志望だけ、あ
るいは第二志望だけで
も変更できる。

② 第2志望だつた科
を第1志望に繰り上げ
ることもできる。

③ 志願変更したいと
申し出てもできないこ
ともある。例えば、10
名オーバーしている科
から12名の生徒が志願
変更を申し出たとす
る。その時には、抽選
などで10名だけに志願
変更を許可する。

④ 初め第2志望を書い
てない場合、志願変更
の際に追加することも
できる。

||再確認||自分が志願
した科またはコースで
定員オーバーしていな
いと志願変更はできな
い。

志願変更について

1・2年生へ

注意

沖縄県立高崎入試の調査書（皆さんは、欠席状況実績等を書いた書類）で、「病欠」か「事故欠」かに分けて書きます。「病欠」の場合は書きませんが、「病欠」の理由は書かないでください。

受検を楽しく成
させるには、親と生
生を味方にすること
です。アウエーでは
なく、ホームにする
のです。

親も先生も味方で
す。志望校に通るよ
うに願つてくれてい
ます。

ところが、親と生
生を敵と感じると、
精神的なストレスが

「家事都合」や「無届」など、理由を明記します。意識せず過ごすと受験時に困ります。高校によつては、無届け欠席を5回以上行つている場合、合格△圈内からB圈内へ外す。といった内容が募集要項へ明記されている場合もあります。気を付けてましょう。

他にも私立高校と県立高校ともに、評定平均が○○以上ないと推薦や特色選抜は受験できなさい。といった決まりがあります。沖縄尚学高校を例にだと、

生きる⑩のこと」より、
「高校受験

惠口を嘗じてトトロニシム

生を敵だと思い込んでしまうのです。



2割の善玉菌で居続ける決意

NPO法人「読書普及会」の理事長、清水克衛さんのお話です。

生き物の世界には2対6対2の法則がある。2つの「2」は対極をなし、「6」はどっちか勢力の強い方になびいていく。

たとえば、細菌の世界では、2割の善玉菌と2割の悪玉菌、そして6割の日和見菌がいる。善玉菌が強いと6割は善玉菌になびき、8割が善玉菌になる。それが「発酵」である。だが、2割の悪玉菌が強いと6割はそっちになびき、8割が善玉菌となる。それが「腐敗」だ。

人間界で言えば、マスコミが「不況です」「大変です」と言い続けると、6割の大衆は口を揃えて、「うちも不景気だ」「うちも大変だ」と大合唱。その結果、国内の8割の勢力が「大変だ、大変だ」というムードになっていく。

清水さんは「2割の善玉菌で居続けよう。そのためには固い意志が必要だ」と言う。誰かが「今は不況だ大変だ」と言っても、「そうですよね」と答えてはいけない。絶対に流されない決意が必要である。誰がなんと言おうと、「不況がどうした!」「売り上げが下がっても俺のテンションは下がらない」「勝利のVという字を見てみい。勝利するためには一度どん底まで下がって落ちなきやいけないんだ」みたいな脳天気なことを言い続ける覚悟がないと、2割の「善玉菌」で居続けることはできない。

人生には運気というものがある。世の中の「悪玉菌」になびいて運気が下がると、ツイてないことが複合的に起こる。しかし、2割の「善玉菌」で居続ける覚悟をすると運気は間違いなく上がる。運気が上がれば、どんなマイナスな状況でも物事が不思議と好転していく。成績が上がったり、いい人間関係に恵まれたり。

運気を上げるきっかけの一つに、「頼まれごとを喜んでやる」というのがある。たとえば、先生に「○○さん、ちょっとこれを手伝って下さい」と頼まれたとする。それを喜んでやると、また頼まれるようになる。「頼まれやすい人、頼りになる人」になると、その人の名が教室でどんどん呼ばれるようになる。そうなると上昇気流に乗るように運気がどんどん上がっていく。

ところが、「なんでいつも私ばっかり…」と愚痴を言い始めると眉間にシワができ、ブスッとした表情になる。そうなると誰からも頼まれごとをされなくなり樂になるが、同時に運気はどんどん下がっていくという。

もう一つ、運気が上がるコツは笑顔。意識して口角を上げているとニコニコしているように見えて、だんだん人相がよくなる。人相が良くなると、間違いなく運気が上がる。

江戸時代に、「稼ぎ3割、仕事7割」という言葉があった。「稼ぎ」とは、今で言えば現金収入につながる商売であったり、給料をもらう業務のこと。それに対して「仕事」というのは、地域のボランティアのことだった。壊れた橋があれば修理に行ったり、お年寄りの眞合を見に行ったり、一銭にもならないけれど、人のため、地域のために一肌脱いで汗を流す、一銭にもならないことだけど、やがてそれは「徳積」という形で本人に還元され、良い人間関係や商売繁盛に恵まれていったそうだ。

以上が清水さんのお話。

学校生活の中でも、一人ひとりが「善玉菌」でいる意識を持てば、授業中のクラスの雰囲気も良くなり、自然と成績も上がってくるでしょう。また、クラス全体の運気も上がりことで、学級の絆も強くなり楽しい学校生活が過ごせる。各クラスの運気が上がりと学年全体の運気も上がり、来年の3月には、みんなが希望する進路に進めるということにつながっていくでしょうね。